

▼今月の『ポピー』の国語で学習するおもな内容と大切なことがらです。

📖の数字は、教科書のページ数です。

2年 山の としょかん 📖 76～87

- 山の中で一人暮らしをしているおばあさんと、おばあさんに絵本を読んでもらいに通ってくる男の子の物語です。
- 人物の気持ちを想像しながら、ユーモラスな場面を楽しめます。
- 1 昔子どもたちに読んでいた絵本を、また声に出して読むようになったおばあさん。
- 2 毎夜、男の子が聞きに来て、その絵本を借りて帰るようになる。
- 3 男の子の後をつけたおばあさんは、不思議で楽しい光景を見ることになる。



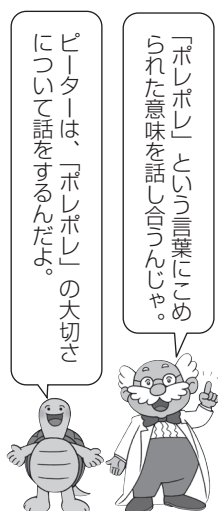
1年 おおきな かぶ 📖 66～75

- 大きなかぶを抜くために、人間と動物が小さな力をつつ合わせていくという民話です。
- リズミカルな言葉の繰り返しのおもしろさに気がきます。



4年 ポレポレ 📖 90～103

- アフリカからの転校生とクラスみんなとの交流をえがいた物語です。
- 情景を思い浮かべながら、人物の気持ちの変化を読み取ります。
- 1 アフリカのケニアからピーターという少年が転校生としてやって来た。
- 2 「ポレポレ」という言葉とピーターに親しみを感ずる「ぼく」。
- 3 いずみの態度に腹を立てたクラスの女の子が、展望台に置き去りにする。



3年 あらしの夜に 📖 96～107

- まっ暗なあらしの夜に、小さな小屋で、おかみとやぎがいつしよに雨やどりする物語です。
- 1 やぎが、小屋であらしのやものを待つていた。
- 2 「コッソん スズ、コッソん スズー。」
- やぎの考え
ひづめの音だ。やぎにちがいない。
● 本当は
足をくじいてつえをついた、おかみだった。



6年 フリードルとテレジンの小さな画家たち 📖 78～91

- 第二次世界大戦中、当時のチェコスロバキアにいたユダヤの人々に本当に起こったことをもとに書かれた話です。
- フリードル
画家。子供たちに「楽しかった思い出」の絵を指導する。のちにアウシュビッツに送られる。
- テレジン収容所の子供たち
厳しい収容所生活の中で、絵を描くことで笑顔をとり戻す。戦後、四千枚の子供たちの絵が見つかった。



5年 注文の多い料理店 📖 82～97

- 生き物を殺すことを何とも思っていない二人の若い紳士が、生き物に食べられそうになる物語です。
- 料理店の戸にかかれた注文の意味を読み取ります。
- 料理店の戸の言葉を、自分の都合のよいように読み取っていく。
- 料理店の戸の言葉がおかしいと気づく。

